旧山田家住宅はハケと呼ばれる崖の上にあり、ホタルの自生地として知られる「みつ池」を眺望できます。崖は世田谷区の「みどりの生命線」である国分寺崖線（こくぶんじがいせん）の一角にあり、緑や湧き水などの豊かな環境が残されています。

旧山田家住宅がある台地の下の「みつ池」には豊富な湧き水があり、崖線とその上の台地には上神明遺跡（かみのしんめいいせき）と呼ばれる縄文時代の集落跡や横穴墓など、古代の遺跡が分布しています。4カ所の湧き水が湿地帯をつくり、奥深い森にはハンノキやイヌシデなどの落葉樹林と武蔵野の林を代表するクヌギやコナラなどの林が混じり合っています。

昭和30年（1955）頃までは農村の里山として管理され、湧き水は農業用水として利用されていました。その水温調整のために3つの溜め池が作られ、これが「みつ池」の由来となりました。

昭和48年（1973）頃、ここにも開発の手が伸びると同時に、自然保護を求める自然環境保護運動が起こり、昭和53年（1978）にその一部が東京都の「成城みつ池緑地保全地区」に指定され、世田谷区の「自然的環境の保護及び回復に関する条例」（現世田谷区みどりの基本条例）により「神明の森みつ池特別保護区」が誕生しました。現在はボランティアが保全活動をしています。年に数回「体験教室」（要申込）を開き、公開されています。

また、旧山田家住宅の周辺地域は成城学園が開発分譲した地域でした。田園郊外の良好な環境の中、住環境に配慮した様々な申し合わせによって、秩序ある快適な住宅街が形成されました。現在でも成城自治会が「成城憲章」を掲げ、住民自らが成城地区の文化や環境を守るまちづくりの規範を示しています。

撮影　世田谷トラストまちづくり

ご利用案内

開園時間	午前9時３０分～午後４時３０分
休園日	毎週月曜日（ただし月曜日が祝日の場合は次の平日） 年末年始（１２月２９日から１月３日）
所在地	世田谷区成城４-２０-２５
交通	小田急線　成城学園前駅下車　北口または西口徒歩７分

《団体利用》

団体（１０名以上）でのご見学は、事前にお申し込みください。
詳細はお問い合わせください。

《カフェコーナー》

カフェ時間：午後１２時３０分～３時（ラストオーダー午後２時３０分）

《ご協力のお願い》

建物の保護とお客様の安全のため、備え付けのスリッパをご利用ください。
小さなお子さんや、足下に不安のある方は、靴下を着用いただきますよう、ご協力をお願いします。

お問い合わせ先
世田谷トラストまちづくり　ビジターセンター
電話番号：０３-３７８９-６１１１
ファクシミリ：０３-３７８９-６１１４

発行
世田谷区みどり３３推進担当部　公園緑地課砧公園管理事務所

写真撮影　清水襄
写真の無断複製を禁じますので、他の媒体への転載はお控えください。

成城みつ池緑地

旧山田家住宅

世田谷区指定有形文化財（建造物）

旧山田家住宅（きゅうやまだけじゅうたく）　１棟

附　建築申請資料 10 枚／不動産取得税資料 3 枚　封筒付
指定年月日　平成28年（2016）2月1日
所 有 者　世田谷区
建 築 面 積　188.25㎡

旧山田家住宅は昭和12年（1937）頃に建築されました。建築主はアメリカで事業を成功させた実業家で、檜崎定吉という人です。帰国後にアメリカで住んだ住宅に似せて建設したと伝わっています。太平洋戦争後は一時連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）に接収されていました。檜崎氏について詳しいことはわかっていませんが、昭和35年（1960）には住宅を売却しています。その翌年に、画家で南画院（特定非営利活動法人南画院）の代表として活躍した山田盛隆氏が屋敷を購入し住まいとしました。

平成27年（2015）に区がもらい受け、成城みつ池緑地として一般公開され、かつて成城で暮らした人々の生活を知ることができる洋館として親しまれています。

２階

非公開エリア

1階

地下

ポーチ

主階段

居間と食堂
住宅の中心に居間と食堂があります。食堂にある階段は住宅内にある2つの階段のうち主階段になります。
踊り場にはステンドグラスの上げ下げ窓があります。繰り型がきれいな手すりと風景を描いたステンドグラスが部屋飾りとなっています。

旧山田家住宅は、連続した上げ下げ窓が並んだクリーム色の外壁とフランス瓦葺きの褐色の屋根が印象的な洋館です。
南東隅にある玄関は、客人を迎えるために、ポーチの庇を支える柱をなくし２方向に階段を設けた開放的な造りにしています。ポーチの壁面には色を変えた２種類のスクラッチタイルで装飾されています。

内部は1階、2階ともに中廊下を配して、機能ごとに部屋が細かく分けられています。居室はほぼ洋室で、寄木張りの床や統一したデザインの上げ下げ窓を多用していることが特徴です。特に寄木張りは廊下にも使われていて、部屋によってデザインを変えているのも見どころです。
この住宅には鉄筋コンクリート造の地下室があります。地下室にはかつてボイラーがあって、邸内はセントラルヒーティングで暖房されていました。居室や廊下にはラジエーターが設置されていましたが、現在は2基が残るのみです。

管理室（旧女中室・非公開）
白漆喰の壁に上げ下げ窓を付けた洋室のしつらえに畳敷きという変わった取り合わせ。暖房用のラジエーターが現存しています。

旧ボイラー室（非公開）
地下室には階段が２つあって、一方は外から土足で出入りができます。木の柱に板を落し込み、仕切りを作って炭置き場にしていました。

台所（非公開）
台所は1階西側に配置され、上げ下げ窓が2つ並ぶ出窓があります。出窓からは崖線のみどりを眺めることができます。
作り付けの食器棚は2階の納戸にある収納と同じデザインが取り入れられています。

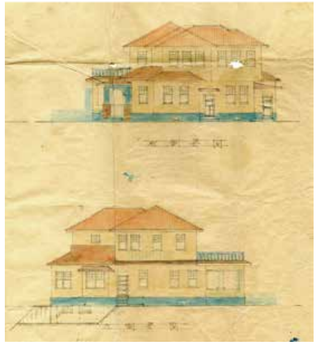
2階の洋室はGHQに接収されたときに、壁が水色や藍色にペイントされました。接収されて外国人が住んだことも、この建物の貴重な歴史としてとらえ、そのまま保存しています。

日本間（客間）
日本間は 洋館の中で唯一の和室です。落ち着いた書院造りです。洋風の上げ下げ窓を隠すように、障子の外側に緩衝となる狭い縁があります。

客間
日本間の隣には洋室の客間があります。南東の日当たりが良い場所に客間を配しました。

納戸
２階にある納戸の床は寄木張りが使われず、内向きの部屋であることを表しています。壁に設けた木製扉の中は屋根裏収納です。

寝室の物入
両方の寝室から使える物入（ウォークインクローゼット）。廊下との境の壁には上げ下げのガラス窓がついています。



旧山田家住宅には、建築確認申請のため資料に添付したと考えられる設計図面が現存しています。現在の立面や間取りとの違いが少なく、創建時の姿のまま現在まで受け継がれてきたことが分かります。設計図の東側立面図（左の図の上）と現在の東面の写真（上）を見くらべてみます。上げ下げ窓の数や位置、屋根の形が同じであることが分かります。図のうち壁の下方に描かれる青い部分は、石張りや玄関のタイル張りの部分です。

寄木のあれこれ

床の寄木張りは木の種類による木肌色の違いや、木目の違いを巧みに組み合わせて模様を作ったもので、洋館には多く取り入れられました。旧山田家住宅ではデザインの種類が多く、廊下まで寄木張りを使っているのが特徴です。